「中所得国の罠」の再検討

ーマレーシアの高所得国への移行を事例にー

植松ゼミ：罠の解明者たち/ TRAP DECODER

Re-examining the “Middle-Income Trap”

—The Transition to High-Income Status Through the Case of Malaysia—

①背景

移住希望先上位10か国

1位. 🇺🇸 米国
2位. 🇨🇦 カナダ
3位. 🇩🇪 ドイツ
4位. 🇦🇺 オーストラリア
5位. 🇪🇸 スペイン
6位. 🇫🇷 フランス
7位. 🇬🇧 英国
8位. 🇯🇵 日本
9位. 🇸🇦 サウジアラビア
10位. 🇮🇹 イタリア

共通点→高所得国

出典： GALLUP, “DESIRE TO MIGRATE DROPS TO NEW LOW.”

所得分類（USD）

低所得国	下位中所得国	上位中所得国	高所得国
≤ 1,175	1,176 - 4,635	4,636 - 14,375	> 14,375

「中所得国の罠」とは

“a situation in which a middle-income country experiences systematic growth slowdowns as it is unable to take on the new economic structures needed to sustain high-income levels.” -WORLD BANK, 2024-

なぜ成長が減速するのか？

- 低賃金や投資に頼った成長が、所得の上昇とともに限界を迎える
- 海外の技術や優れた経営手法が、国内企業に十分広がらない
- 既存企業が市場を占め、新しい企業や技術が育ちにくい
- 生産性を高めるイノベーションが進まない

「罠」から抜け出すための解決策

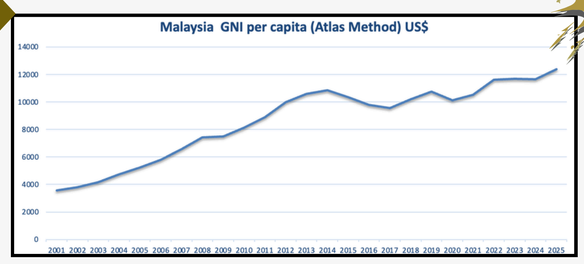
- 投資　　：人材・インフラ・設備に投資する
- 技術導入：海外の技術や経営手法を取り入れ、国内へ
- 革新　　：新しい技術や製品を生み出す力を育てる

→ 投資だけに頼る成長から、技術の普及とイノベーションによる生産性向上へ

②問題提起

🇲🇾マレーシアの歩み：

- 1992年：上位中所得国になる
- 2010年：「新経済モデル」で2020年までの高所得国入りを目標にする
- 2020年：目標の期限（未達成）
- 2026年：同じ区分に留まる



VS

現地で見たマレーシア



問い：所得という単一の指標で判断する『中所得国の罠』の見方はマレーシアの発展の実態を捉えきれていないのではないか

③研究方法

分析1：所得水準の比較
1人当たりGNIをATLAS方式とPPP方式で比較し、マレーシアの所得水準を確かめる。

分析2：所得以外の指標の比較
人口、平均寿命、失業率、教育、貧困率、所得格差を高所得国と比べ、発展の側面を調べる

比較対象国(所得区分の変化)

- マレーシア(上位中所得国)
- コスタリカ(2024年に高所得国)
- ブルガリア(2023年に高所得国)
- チリ(2012年に高所得国)
- ウルグアイ(2012年に高所得国)

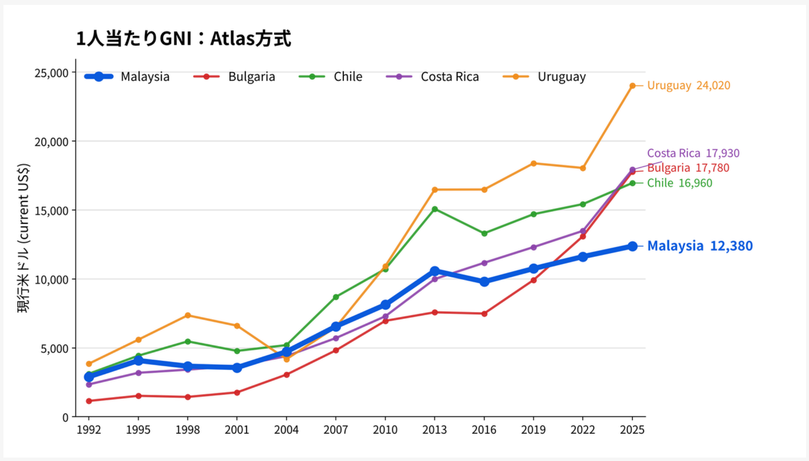
④分析１：GNI per capitaの測定方法の比較

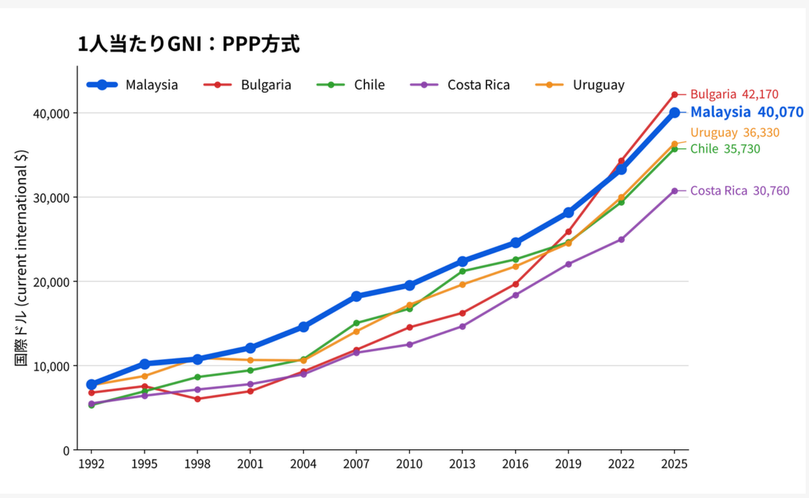
Atlas方式とは

- 世界銀行が所得水準による国の分類に用いる
- 自国通貨で表された1人当たりGNIをAtlas換算係数を用いて米ドルに換算する
- 国内外のインフレ率の差を調整することで為替変動の影響を緩和する

PPP方式とは

- 購買力平価（Purchasing Power Parity）を用いて所得を換算する
- 各国の物価水準の違いを考慮し、同じ金額で購入できる商品やサービスの量を比較する
- 各国の購買力や物質的な生活水準を比較する際に役立つ





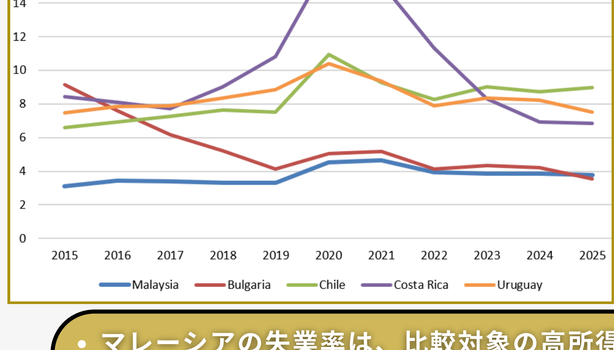
出典:World Development Indicator

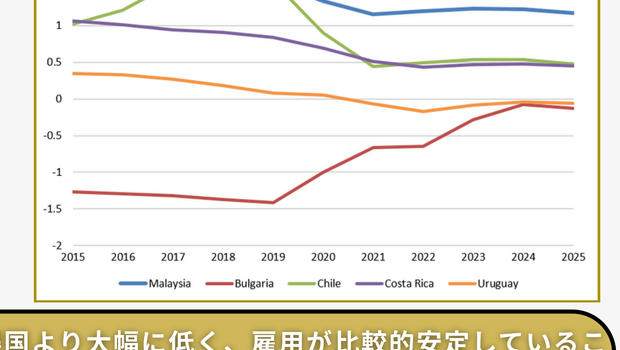
データから分かったこと

- GNI PER CAPITAをATLAS方式で比較するとマレーシアは他の4カ国と比べて最も低い水準にあるが、為替レートを考慮せず、購買力に応じた指標であるPPPを使用すると、これらの高所得国と比べても上位に位置している。
- ATLAS方式は市場為替レートに基づく換算で、3年平均とインフレ調整を行っても、為替変動の影響は完全には除けない。
- 物価の低い国は市場レート換算で過小評価されるため、ATLAS方式だけでは実力を測れない。

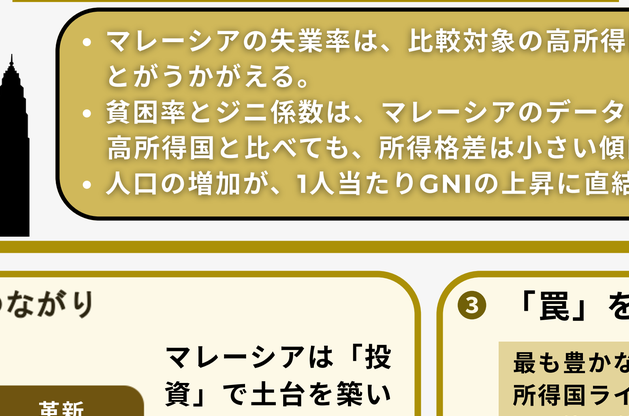
⑤分析２：所得以外の指標の比較

1.国内の格差



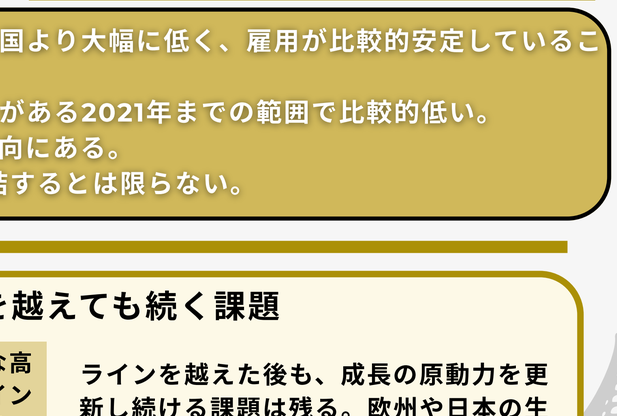


2.健康面

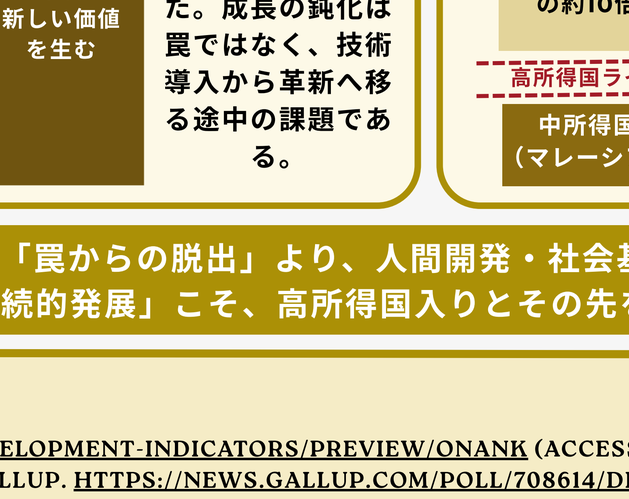


3.教育面

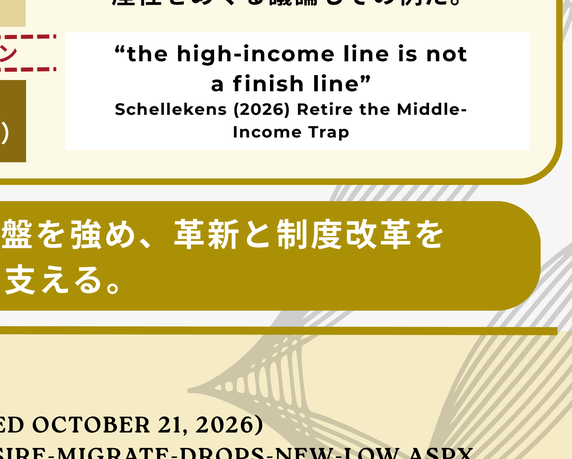
※教育の指標は国ごとに基準が異なる



4.雇用面



参考：人口増加率

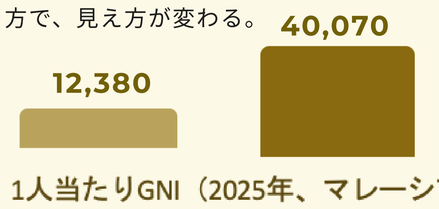


- マレーシアの失業率は、比較対象の高所得国より大幅に低く、雇用が比較的安定していることがうかがえる。
- 貧困率とジニ係数は、マレーシアのデータがある2021年までの範囲で比較的低い。高所得国と比べても、所得格差は小さい傾向にある。
- 人口の増加が、1人当たりGNIの上昇に直結するとは限らない。

⑥まとめと考察

❶ 分析で分かったこと

測り方で、見え方が変わる。



失業率・貧困率・ジニ係数も、高所得国と比べて遜色ない。所得の分類だけでは実態を捉えきれない。

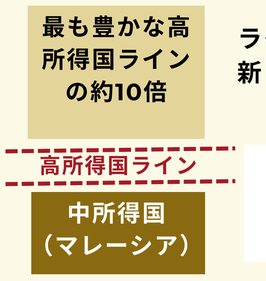
❷ ①の「解決策」とのつながり

成長の原動力は、段階に応じて切り替わっていく。



マレーシアは「投資」で土台を築いた。成長の鈍化は罠ではなく、技術導入から革新へ移る途中の課題である。

❸ 「罠」を越えても続く課題



ラインを越えた後も、成長の原動力を更新し続ける課題は残る。欧州や日本の生産性をめぐる議論もその例だ。

“the high-income line is not a finish line”
Schellekens (2026) Retire the Middle-Income Trap

結論 → 所得の分類だけでは、発展の実態は見えない。目指すべきは「罠からの脱出」より、人間開発・社会基盤を強め、革新と制度改革を続けること。生活・健康・教育・雇用を含む「多次元的な持続的発展」こそ、高所得国入りとその先を支える。

参考文献

- WORLD BANK (2024). WORLD DEVELOPMENT REPORT 2024: THE MIDDLE-INCOME TRAP.
- WORLD DEVELOPMENT INDICATORS. HTTPS://DATABANK.WORLDBANK.ORG/SOURCE/WORLD-DEVELOPMENT-INDICATORS/PREVIEW/ONANK (ACCESSED OCTOBER 21, 2026)
- RAY, J., & PUGLIESE, A. (2026, APRIL 23). DESIRE TO MOVE PERMANENTLY TO U.S. AT NEW LOW. GALLUP. HTTPS://NEWS.GALLUP.COM/POLL/708614/DESIRE-MIGRATE-DROPS-NEW-LOW.ASPX
- SCHELLEKENS, P. (2026, AUGUST 10). RETIRE THE MIDDLE-INCOME TRAP. MOVING FRONTIERS. HTTPS://MOVINGFRONTIERS.SUBSTACK.COM/P/RETIRE-THE-MIDDLE-INCOME-TRAP